

日本英文学会東北支部ニューズレター

Newsletter

The Tohoku Branch of the English Literary Society of Japan

2026年6月号 (June 2026)

発行 日本英文学会東北支部 〒990-8560 山形市小白川町一丁目 4-12 山形大学教育学部 三枝和彦研究室内
TEL: 023-628-4827 E-mail: tohoku@elsj.org URL: <https://elsj.org/tohoku/>

支部長挨拶

日本英文学会東北支部長 大貫隆史

東北大学の大貫と申します。任期2年の最後の年となります。本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年度を振り返りますと、『英文学研究 支部統合号』第18巻(2026)の刊行、同号における東北英文学賞(奨励賞)の酒井祐輔会員への授与、第80回大会の開催(東北大学川内南キャンパス)などが無事なされました。正準両会員のみなさまのご協力にあらためて御礼申し上げますと同時に、日ごとに厳しさを増す勤務条件のもと、編集委員としてご尽力くださった五十嵐啓太、高橋英也、鈴木舞彩、菊池秋夫、川田潤、堀智弘会員、大会準備委員・開催校委員としてご貢献くださった戸塚将、柳澤國雄、泉順子、山口晋平、土屋陽子、飯味千秋、島越郎、中村太一、平塚哲郎会員に、同じく、どの言葉を用いてもうまく表現できないほどの感謝の意を、この場を借りてお伝えしたく存じます。

昨年度のご挨拶で、「英語と文学の「豊かさ」」、「個人を越えて連続しているものの「豊かさ」」ということに触れました。その後、みずからの教育実践、研究実践を振り返るなか、この「豊かさ」は、いわゆる「権威」から、完全に切り離せないかもしれない、ということに、ごく痛切に思いめぐらす日々を過ごしました。個人的なことながら、このことへの反省は、いまま継続しているのですが、それでもなお、「個人を越えて連続しているもの」への信を、やはり完全に手放してしまうと、英語と文学の研究の、その「豊かさ」あるいは「充溢感」とでもいうべきものが縁遠くなってしまう、という確信は変わることがありませんでした。

比喩的な言い方をゆるして頂ければ、新しい風を呼び込む窓それ自体は、古いものであってよいし、かりに窓が新しくともデザインや建て付けのあり方は伝統的なものであってよい、いや、その方がよいのかもしれない、ということです。英語の tradition には、「裏切り」という一見して矛盾する語義があるとは、とある比較文学者、小説家の示唆するところですが、「伝統」のこうした複雑な本義に即し、変化を恐れず、かつ、「個人を越えて連続しているものの「豊かさ」」のもたらす充溢感を享受しつつ、本年度の各種事業の進行に臨みたく存じます。

端的には、安心感をもち、かつ、楽しく、東北支部の運営に貢献したい、という所存となります。

最後になりますが、支部ウェブサイトの維持改善のため多大なお時間を頂戴している佐藤元樹事務局員、支部統合号の取りまとめ実務をご担当頂いている齋藤章吾事務局長補佐、東北英語教育学会(私も昨年入会いたしましたことをやや私事ながら付記いたします)の山形支部長のお務めと同時並行して本事務局を統括頂いている三枝和彦事務局長、ご校務に奔走されるなか万全のサポートを賜った福士航副支部長、支部運営に際してつねに格段の理解を頂いている支部理事のみなさまに格別の感謝を申し上げ、また、正準両会員のみなさまに、支部運営、とりわけ本年度の大会、支部統合号第19巻への、積極的な関与をお願いすると同時にあらかじめの感謝を申し上げ、本年度の挨拶と代えさせていただきます。

入退会手続きおよび会費納入について

全ての東北支部会員の入退会手続きおよび会費納入は、支部事務局ではなく本部事務局を通じて行われています。2026年3月からは会員管理システム「SMOOSY（株）アトラス」が導入されています。日本英文学会 HP（<https://www.elsj.org/index.html>）「入会・SMOOSY案内」に、入退会及び会費納入に関する情報がございます。年会費は一般会員 8,000 円（本部会費 7,000 円＋支部会費 1,000 円）、学生会員 5,000 円（本部会費 4,000 円＋支部会費 1,000 円）です。その他、ご不明な点は、同 HP の「お問い合わせ」をご覧ください。

東北支部第 81 回大会の開催について

2026年4月12日（日）に第1回大会準備委員会が Zoom によるオンライン会議として開かれました。審議の結果、第81回大会は以下の日程で行われることが承認されました。

日 時：2026年12月5日（土）

場 所：秋田大学 教育文化学部（秋田市手形学園町1番1号）

*懇親会を開催予定です。場所や申込方法などについては、メール等でご案内いたします。

研究発表応募について

第81回大会における研究発表応募は、6月5日（金）が締め切りです。締め切りまであとわずかですが、ご応募をお待ちしています。

シンポジウムについて

第81回大会で行われるシンポジウムについては、現在、以下のように準備が進められています。

◆文学部門

テーマ：英米文学作品に見られる他者への共感（仮題）

司会・講師：土屋陽子（弘前大学）

講師：杉山和孝（東北学院大学）

浦野 郁（共立女子大学）

迫 桂（慶應義塾大学）

◆英語学・英語教育部門

テーマ：未定

講師：坂本瑞生（東北大学英語学研究室研究員）

清水野貴大（東北大学英語学研究室研究員）

他、調整中

大会準備委員について

今年度の大会準備委員は以下の会員が務めます。

文学部門：

土屋陽子（弘前大学）

高田英和（福島大学）

中谷紘子（岩手大学）

英語学・英語教育部門：

柳澤國雄（旭川医科大学）

中村太一（東北大学）

開催校委員：

大西洋一（秋田大学）

編集委員について

今年度の編集委員は以下の会員が務めます。

文学部門：

川田 潤（福島大学）

堀 智弘（弘前大学）

英語学・英語教育部門：

高橋英也（岩手県立大学）

鈴木舞彩（北見工業大学）

納谷亮平（筑波大学）

東北支部役員選挙について

今年度は2年ごとに実施される、支部理事改選選挙の年です。投票に関する詳細については、9月後半から10月初旬の間に送付される通知をご覧ください。選挙では「理事の連続選出の制限に関する申し合わせ」が適用され、連続で8年間理事を務めた委員は候補から除外されます。なお、会費の未納が2年以上続くと会員資格を失います。支部理事選挙の選挙権も失いますのでご注意ください。会費未納の会員は、どうぞお早めに納入をお願い致します。

事務局の体制について

三枝和彦（山形大学）が事務局長を、齋藤章吾（弘前大学）が事務局長補佐を、佐藤元樹（福島大学）が事務局員を務めております。支部大会開催関係事務と会計を三枝が、出版関係事務を齋藤が、HP管理を佐藤が担当しております。事務局へのご連絡はEメール（tohoku@elsj.org）をお使い下さい。

理事会報告

2026年4月12日（日）に開催された第1回理事会の議事メモを掲載いたします。

日本英文学会東北支部 2026年度 第1回理事会

日 時 2026年4月12日（日） 10:00～10:30
場 所 Zoomによるオンライン会議

出席者（順不同・敬称略）

支 部 長 大貫隆史（東北大学）

理 事 井出達郎（東北学院大学） 川田潤（福島大学） 木村宣美（弘前大学）

酒井祐輔（宮城学院女子大学） 佐々木和貴（秋田大学）

島越郎（東北大学） 高田英和（福島大学）

事 務 局 三枝和彦（事務局長） 齋藤章吾（事務局長補佐）

欠 席 者 福士 航（副支部長・東北学院大学） 境野直樹（岩手大学）

議 題

会議に先立って、大貫支部長より、挨拶が行われた。

報告事項

(1) 本部理事会報告

以下二点について報告がなされた。

1. 本部会員管理のオンライン化について（会員管理システム「SMOOSY」の導入）
2. 生成AIの使用について（参考資料1、2）

議事

(1) 2025年度事業報告（資料1）

例年の事業に加え、事務局移転に伴う引き継ぎ会の実施、研究振興事業として若手研究者のためのトラベルグラントの申請・授与が1件、東北英文学賞授賞規程に関する審議が第2、3回臨時理事会において行われたことが報告された。

(2) 2025年度決算報告（資料2）

資料2（収支計算書）に基づき2025年度決算報告があり、承認された。支出について、『東北英文学研究』の掲載論文数増加に伴い事業費学術刊行物印刷費が、事務局引き継ぎ会開催に伴い管理費旅費交通費が、前年度と比較して増加したことが説明された。

(3) 2025年度監査報告（資料3）

資料2（監査済み収支計算書）に基づき監査報告があり、承認された。

(4) 2026年度事業計画について（資料4）

資料4に基づき、2026年度事業計画について説明があり、承認された。2026年度は、2年に1度の支部理事選挙が実施されることに言及があった。

(5) 2026年度予算について（資料5）

参考：支部予算の編成方針（本部3月理事・評議員会）（資料6）

資料5、6に基づき、予算について説明があり、承認された。予算は1月末の決算に基づき作成されたものであり、支部支援金として2025年度と同額の21万円が繰り入れられるが、30万円程度の赤字になる見込みであることが説明された。

(6) その他

特になし